ルクセンブルク経済・金融情勢（2013年11月前半）

1. 経済

- 欧州委員会2013年秋の経済見通しによると、ルクセンブルクの経済成長率予測は2013年1.9%、2014年1.8%、2015年1.1%。（欧州委員会2013年秋の経済見通し）
- 10月のインフレ率は年率換算で1.2%（9月は1.5%）。年間のインフレ率は、2013年1.7%、2014年1.5%の予測で、次回の賃金物価スライドの発動は2014年10月になる見通し。（6日付統計局プレスリリース）
- 当国ステンレス鋼メーカーのAperam社、2013年第3四半期の純損失は19百万ドル（前四半期は11百万ドルの損失）で、EBITDA（利払い・税・償却前利益）は62百万ドル（前四半期は81百万ドル）。（7日付ヴォルト紙）
- 当国SES社、2013年第3四半期の収益は467.7百万ユーロ（前年同期は467.7百万ユーロ）で、EBITDA（利払い・税・償却前利益）は347.3百万ユーロ（前年同期は346.9百万ユーロ）。米における業績は低調であったが、欧州及びその他地域においては好調であった。（8日付ヴォルト紙電子版）
- RTLグループ（本社当国）、2013年第3四半期の収益は12億6900万ユーロ（前年同期比▲2.1%）で、EBITDA（利払い・税・償却前利益）は162百万ユーロ（前年同期比▲1.8%）。同グループは、第3四半期は夏期休暇のために活動が低調となる時期であるとしつつも、欧州広告市場の状況は改善しているとした。（12日付ヴォルト紙電子版）
- カーゴルクス社、ブエノスアイレスへの運航を週1便追加し、合計週2便となる旨発表。（12日付ヴォルト紙）

2. 金融

- 当国保険セクター、2013年第3四半期の全体の保険料収入は前年同期比▲6.87%で、第2四半期に引き続き減少。（6日付ル・コティディアン紙）
- 税公正ネットワークによる2013年報告書において、ルクセンブルクは世界で2番目に透明性の低い金融センターを有する国・地域であると指摘。1位はスイス、3位は香港、4位はケイマン諸島。（7日付ヴォルト紙電子版）
- ルクセンブルク証券取引所、深セン証券取引所と、情報交換、人材交流、経験共有等において協力実施を定める覚書（MOU）に署名。（11日付ルクセンブルク証券取引所プレスリリース）
- ルクセンブルク金融監督委員会（CSSF）、人民元適格国外機関投資家域

内証券投資試行弁法（RQFII）を利用するファンドにつき初めて認可を付与。（13日付ルクセンブルク・フォー・ファイナンス）

3. 政府

- シュナイダー経産相、ブリュッセル開催のベルギー・ルクセンブルク経済同盟（BLEU: Belgium-Luxembourg Economic Union）・露間の経済協力委員会に13日出席。（11日付経産省コミュニケ）
- シュミット雇用相、若年者の雇用に関する欧州会議に出席。（12日付労働・雇用省コミュニケ）
- フリーデン財務相、Zhang Yun中国農業銀行頭取と14日にルクセンブルクにて会談。同総裁は、中国農業銀行の欧州拠点をルクセンブルクに設立することへの関心を示した。（15日付財務省コミュニケ）
- フリーデン財務相、ブリュッセル開催のユーログループ（14日）及びEU財務相会合（15日）出席。（13日付財務省コミュニケ）

※ 当国政府機関の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。